ISSN 1343-4683

留学生交流・指導研究

Journal of International Student Advisors and Educators

Volume
26

2023

COISAN

Council of International Student Advisors of National Universities

国立大学留学生指導研究協議会

ISSN 1343-4683

留学生交流・指導研究

Journal of International Student Advisors and Educators

Volume
26

2023

COISAN

Council of International Student Advisors of National Universities

国立大学留学生指導研究協議会

留学生交流・指導研究
Journal of International Student Advisors and Educators

Volume 26/ 2023

はじめに　有川友子・・・3

■特集　留学生アドバイジングの知識と技能：先駆者の経験に学ぶ

・国際交流アドバイザー 33 年
　—学んだこと、学びたいこと—　田中京子・・・7
・私が COISAN とともに思い続けた日本流留学生アドバイジング　中本進一・・・13
・‘To be a someone whom others would like to meet again tomorrow’
　「明日にも会いたくなる人になりたい」　LRONG Lim・・・19

■投稿論文

【研究ノート】
・日韓共同理工系学部留学生事業（日韓プログラム）キャリア追跡調査
　—インタビュー調査の分析を中心として—　太田　亨・・・27

【実践報告】
・オンラインと対面のハイブリッドで実践した国際共修授業の事例分析
　—対等な関係性を構築するために—　髙松美能・・・41
・留学生相談・支援組織の変遷
　—13 回におよぶ改編が実践現場にもたらした影響—　田中京子・・・55

投稿論文英文要旨・・・71

■報告

【第 12 回留学生交流・指導研究会報告】
研究会報告・・・77
実践報告 1：新入留学生を対象としたテーマ別オリエンテーションの実践
　—東北大学 23 年秋学期受入れの事例から—　渡部留美・・・79
実践報告 2：日韓共同高等教育留学生交流事業（日韓プログラム第 3 次事業）
　活性化への取組み　太田　亨・・・81

【2023 年度研究協議会報告】
2023 年度国立大学法人留学生指導研究協議会
兼　第 57 回大阪大学留学生教育・支援協議会・・・85

付　録・・・87
国立大学留学生指導研究協議会規約、2023 年度役員、入会案内、入会申込書、
『留学生交流・指導研究』第 27 号投稿規程・編集規程、
『留学生交流・指導研究』第 27 号投稿規程・編集規程（英文）

編集後記・・・106

はじめに

『留学生交流・指導研究』第 26 号発刊によせて

有 川 友 子
COISAN 代表幹事
大阪大学国際教育交流センター

この度 COISAN（国立大学留学生指導研究協議会）発行のジャーナル『留学生交流・指導研究』第 26 号をお届けいたします。本号では特集記事 3 本、研究論文 1 本、実践報告 2 本を掲載しています。

本号では特集記事として、2023 年度で退職される名古屋大学の田中京子先生、埼玉大学の中本進一先生、香川大学のロン・リム先生に、それぞれの留学生アドバイザーとしての長いキャリアとご実績につきまして振り返っていただきました。これまで先生方がご活躍された約 30 年の間に、世界も日本も大きく変化しましたし、留学生の置かれた状況、大学の置かれた状況も大きく変わりました。先生方それぞれがこの間どのようなことを大事にしながら、留学生の教育や支援を行ってこられたか、またその中で、如何に学内外の関係者との協力や連携やネットワークを大事にしながらお仕事されてこられたかなど、まとめていただきました。これらのご寄稿を読むことを通して、先生方の長年のご実績とその中での熱い思いを学ぶことができますし、留学生アドバイジングの仕事をする際に参考にできることが沢山書かれていると思います。田中先生、中本先生、ロン先生にご寄稿いただいたことに心より感謝申し上げます。

田中京子先生にはもう 1 本、実践報告として、留学生相談・支援組織の変遷について書いていただきました。大学の留学生関係組織が、その時代時代の国の方針や事業、大学の方針や事情などにより、改編に改編を続けてきたことにつきまして、ご報告いただきました。こちらは留学生関係組織の変遷の資料としても大変貴重なご報告となりました。心より感謝申し上げます。

このほか、太田亨氏による研究ノートは、「日韓共同理工系学部留学生事業」にて来日した韓国人留学生の卒業後の進路やキャリア形成についてインタビュー調査を行い分析したものです。この「日韓共同理工系学部留学生事業」は 2000 年からの 10 年間の「第 1 次事業」、2010 年から 10 年間の「第 2 次事業」というかなり長期間行われた事業であり、このプログラムに参加した留学生の卒業後のキャリアについて追跡調査をされた貴重な研究成果となっています。

また実践報告として、髙松美能先生がオンラインと対面ハイブリッドで実践した国際共修授業の事例の分析をしています。コロナ後に対面での授業が復活しましたが、オンラインと対面のハイブリッドでの授業が続いているところもあります。ハイブリッドでの授業の参考にしていただけるとありがたいです。

このほか、本号には 2024 年 2 月 16 日開催の COISAN 研究会のプログラムや、COISAN が協力し 2024 年 2 月 15 日に大阪大学で開催された 2023 年度国立大学法人留学生指導研究協議会のプログラムにつきましても掲載しております。

本号発行にあたり、和田編集委員会委員長をはじめ COISAN ジャーナル編集委員会の皆様に大変お世話になりました。一つ一つのプロセスを丁寧に進めていただきましたこと、感謝申し上げます。本ジャーナルは 2023 年から J-Stage に公開されておりますこと、あわせてお知らせいたします。

最後になりますが、本号の特集記事にご寄稿いただいた田中先生、中本先生、ロン先生、COISAN においてこれまで長い間大変お世話になりました。ありがとうございました。また、本号に投稿いただいた皆様、査読いただいた皆様、ありがとうございました。本号が皆様の留学生教育交流の研究と教育に参考としていただけましたら幸いです。

投稿論文 英文要旨

『留学生交流・指導研究』Vol.26 pp.71-73

The Career Tracking Survey of the Japan-Korea Joint Undergraduate Program for Science and Engineering Students (The Japan-Korea Program): Focusing on the Analysis of the Interview Survey

OTA Akira

In this study, the author presents the results of an interview survey and analysis of the post-graduation career paths and career development of Korean students who came to Japan under the Japan-Korea Joint Undergraduate Program for Science and Engineering Students (The Japan-Korea Program) and graduated from science and engineering faculties of Japanese national universities. Twenty-four respondents, out of the 67 from the previous questionnaire survey, cooperated for the interview survey and gone through a semi-structured interview, which was analyzed using the modified grounded theory approach (M-GTA). The analysis generated 16 concepts, 7 subcategories, and 3 main categories. The M-GTA storyline and resulting diagram demonstrate that the Japan-Korea Program's students primarily deal with three concepts in their campus life: "coping with military service (male participant only)", "scholarship and part-time jobs", and "relationships among faculty members and students at the university". Moreover, the analysis results reveal that the students develop themselves into career professionals, especially in the science and engineering fields, after entering graduate schools and dealing with military service for male individuals.

Keywords: The Japan-Korea Program, Career Tracking Survey, Interview Survey, The Modified Grounded Theory Approach (M-GTA), The Japan-Korea Youth Exchange

Case Study of Hybrid Intercultural Co-learning Class: Creating Equal Relationship among the Students

TAKAMATSU Mino

This paper introduces one Intercultural Co-learning course, which was conducted through online and face to face in English. This course was about Human Rights Education and originally planned as an online course. Some students from other Japanese universities also participated through online and they could not actually come to the classroom. After the first 2 classes, the challenge was obvious that Japanese students faced huge language barrier and could not participate into discussion. One of the reasons was that the topic was difficult for them to discuss in English. Since it was online, students were required to have high level of English skills to discuss without using non-verbal expressions. In order to solve the problem, hybrid method was used from the 3rd class. It was clear that face to face students started openly expressing their views.

Some challenges were still remained for the online students. First, online class limited students' interaction during and after the classes. Second, the support from the instructor was limited for the online students compared to face-to-face students.

On the other hand, if online is used effectively such as recording the lecture and sharing it to the students, students who are absent from particular classes can catch up, and all the students can repeatedly watch it after the class for review. Also, online provides the possibilities for students in all over the world to connect and participate without actually moving. Therefore, online has potential to enhances students' study outcome, thus next challenge is how to use both online and face to face effectively.

Keywords: Online, Face to Face, Hybrid, Intercultural Co-learning Class, Equal Relationship

Changes in International Student Counseling and Support Organization: The impact of the 13 reorganizations on the field of practice

TANAKA Kyoko

This paper provides a chronological overview of the changes in the international student counseling and support organization at Nagoya University over more than 30 years from the early 1990s to the 2023, in relation to the Japanese government and university policies for promoting internationalization. The paper then reports on the impact of these organizational changes on the field of practice, based on the author's experience.

Since the 1980s, when the acceptance of international students at Japan's national universities was particularly strengthened, the government provided subsidies to universities to promote internationalization necessary for each era. In case of Nagoya University, new organizations were established, existing organizations were merged, each became independent again, etc. Although the reorganizations were made out of the necessity of the times, sometimes the main purpose seemed to be for obtaining budgets from the government. Too frequent changes put excessive time and emotional burdens on those practicing in international student counseling and support.

As society undergoes further drastic changes, it is likely that universities will need to change. It is very important that reorganization should be based on the mission and ground design of the university, and take into account its effects as well as its impact and risks on the field of practice.

Keywords: organizational restructuring, internationalization of universities, counseling for international students, support for international students

2023年度　留学生交流・指導研究会報告

第 12 回留学生交流・指導研究会報告

日時：2024 年 2 月 16 日（金）
於：大阪大学（吹田キャンパス）ハイフレックス開催

本研究会は、COISAN 会員が日頃留学生のアドバイジング業務や留学生教育に従事する中で直面している問題について会員同士が直接顔を合わせながら、情報やノウハウを共有するとともに、留学生アドバイジングの領域に関連する教育実践、研究成果を発表する場として 2013 年より年 1 回開催している。2021 年度及び 2022 年度は、COVID19 の感染拡大の影響を考慮してオンライン開催で実施したが、昨年 2023 年度は、対面、オンライン併用のハイフレックス形式で開催し、参加者から参加しやすいとの声があったため、2024 年度も同様にハイフレックス開催で実施した。

第 12 回の研究会のプログラムは、午前に特別講演を行い、昼食時間を挟んで、午後には実践報告を行う 2 部制のプログラム構成とした。午前午後ともに、対面に加え WEB 同時配信を行い、オンライン参加も可能にした。特別講演には 40 名、実践報告には 35 名の参加があり、全日程を無事終了することができた。以下にその詳細について述べる。

第 12 回研究会では午前に特別講演として大阪大学大学院工学研究科コンプライアンス室の根岸和政先生を招き、「大阪大学工学研究科の学生支援」と題して、学生支援、学生相談の現場の取り組みや学生対応の実際について、根岸先生のご経験をもとにお話しいただいた。さらに複数のケースを用いて、グループごとに対応を検討し、学生対応への理解をより深めることができた。講演後も参加者からは質問が途切れることなく続き、その関心の高さが窺われた。

午後には、2 件の実践報告が行われた。まず、実践報告 1 では、渡部会員から「新入留学生を対象としたテーマ別オリエンテーションの実践―東北大学 23 年秋学期受入れの事例から―」として東北大学において実施されている多種多様なオリエンテーションについて示され、参加学生の様子や、実施における工夫、またその効果について述べられた。実践報告 2 では太田会員から「日韓共同高等教育留学生交流事業（日韓プログラム第 3 次事業）活性化への取組み」として、現在の日韓プログラムの置かれた現状について述べられ、その課題及び今後への提言が示された。

さらに、2 件の発表の後に、質疑応答の時間を設け、活発な質疑応答が行われた。

第 12 回留学生交流・指導研究会プログラム

■「大阪大学工学研究科の学生支援」

根岸　和政（大阪大学大学院工学研究科コンプライアンス室 レジリエンス教育部門）

■実践報告 1「新入留学生を対象としたテーマ別オリエンテーションの実践

―東北大学 23 年秋学期受入れの事例から―」　渡部　留美（東北大学）

■実践報告 2「日韓共同高等教育留学生交流事業（日韓プログラム第 3 次事業）活性化への取組み」

太田　　亨（金沢大学）

第 12 回研究会企画・運営班（50 音順）

瀬尾匡輝（茨城大学）・園田智子（東京大学）・趙丹寧（埼玉大学）・中野遼子（東北大学）・

村上和弘（愛媛大学）

実践報告 1：新入留学生を対象としたテーマ別オリエンテーションの実践
―東北大学 23 年秋学期受入れの事例から―

発　表　者：渡部　留美（東北大学 高度教養教育・学生支援機構）

1. はじめに

本発表では、東北大学で実施している新入留学生向けテーマ別オリエンテーション「Welcome Week」を取り上げ、2023 年秋入学留学生向けに行なった内容及び参加学生によるアンケート結果について紹介する。「Welcome Week」は、もともと、英語プログラムの留学生が日本での生活に早い段階から馴染めるように設計、2017 年から提供されていた「サバイバル日本語講座」（島崎ら 2019）が発展したものである。さらに多様化する留学生の現状や留学生学生生活調査の結果から、彼らのニーズに合わせ、内容を変更、改善してきた。

2. 2023 年秋学期の実施報告

2023 年秋学期に提供したプログラム内容は表のとおりである。多くの留学生が、入学後日本語クラスを履修することから、サバイバル日本語は、大学院生等研究で忙しく定期的に日本語学習のできない学生向けに提供をすることとし、日常生活に必要なもの（ゴミの捨て方、交通ルール、災害への備え、日本のマナー）や学内情報（クラブ・サークルの情報と参加方法、国際共修授業の紹介、図書館ガイダンス、キャンパスツアー、キャリア支援、学生相談）の提供を行なうこととした。プログラムは本学の学生スタッフがツアー、セッションを担当しているが、図書館、学生相談、キャリア支援等、専門的なものは担当教職員の協力を得て行なっている。街ツアーとサバイバル日本語は学内で学生ボランティアを募っている。留学生間のネットワーク形成だけでなく、国内学生との友人形成につながることを期待している。事前に 193 名、延べ 973 人の申し込みがあり、約半数が交換留学生であった。実際の参加者は延べ 513 人であった。参加率は 3 ～ 7 割であり、セッションや日程によって異なっていた。

3. 参加者によるアンケート結果

参加した留学生のうち 54 名からアンケート結果を得た。半数がプログラムの担当教職員から、3 分の 1 が大学の HP から Welcome Week の情報を得ていた。いずれのセッションも概ね好評であった。参加の動機は、「プログラムの内容に興味・関心があった」が 83.3%、「日本での留学生活に必要だと思った」が 72.2%、「留学生と交流したかった」が 57.4% であった。参加して得られたものは「東北大学についての情報を得ることができた」「留学生と交流できた」がそれぞれ 75.9% であった。ボランティアとして参加した国内学生に対するアンケートでは、国際交流に興味・関心のある学生が留学生と交流したいという動機で参加していることがわかった。全員が「留学生と交流できた」ことを得られたものとして回答していた。

4. 今後にむけて

参加留学生及びボランティア学生に行なったアンケート結果からは、概ね好評であったが、改善すべき点もみられた。より増加、多様化する留学生のニーズに対応するため今後も改善を行なう必要がある。

表　2023 年秋学期 Welcome Week プログラム

日	時間	内容	使用言語	キャンパス	定員	申し込み数	参加人数
9/25(月)	10:30-12:00	川内キャンパスツアー	日本語/英語	川内	30	21	14
	13:00-14:30	学生相談/キャリア支援	日本語/英語	川内	50	28	2
	14:40-16:10	サバイバル日本語	日本語/英語	川内	20	15	5
9/26(火)	10:30-12:00	青葉山キャンパスツアー	日本語/英語	青葉山	30	63	25
	13:00-14:30	ゴミの捨て方/災害への備え/交通ルール	日本語/英語	川内	50	54	43
	14:40-17:50	国際共修授業/日本のマナー/クラブ・サークル/SIMカード申込	日本語/英語	川内	50	113	97
9/27(水)	10:30-12:00	図書館ガイダンス	英語	川内	30	76	42
	13:00-14:30	川内キャンパスツアー	日本語/英語	川内	30	54	50
9/28(木)	10:30-12:00	青葉山キャンパスツアー	日本語/英語	青葉山	30	52	24
		川内南キャンパスツアー	日本語/英語	川内	30	49	20
	13:00-14:30	図書館ガイダンス	中国語	川内	30	27	13
	16:20-17:50	サバイバル日本語オンライン	日本語/英語	オンライン	20	41	8
9/29(金)	8:50-10:20	サバイバル日本語	日本語/英語	青葉山	20	54	11
	10:30-12:00	ゴミの捨て方/災害への備え/交通ルール	英語	青葉山	50	90	32
	13:00-14:30	学生相談	英語	青葉山	50	62	15
9/30(土)	11:30-14:30	街ツアー	日本語/英語	川内	50	162	110
10/26(木)	16:30-18:00	ゴミの捨て方/災害への備え/交通ルール	英語	星陵	50	12	2
					620	973	513

参考文献

宇塚万里子・岡益巳（2015）「新入留学生への支援に関する実践研究」『大学教育研究紀要』第 11 号、pp.183-198.

島崎薫・渡部留美・渡邉由美子（2019）「東北大学における留学生入学前準備プログラムの実践報告―サバイバル日本語講座 2017 の事例―」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 5 号、pp.247-260.

実践報告２：日韓共同高等教育留学生交流事業（日韓プログラム第３次事業）活性化への取組み

発　表　者：太田　　亨（金沢大学 国際機構）

「日韓共同理工系学部留学生事業」（第１次・第２次日韓プログラム）は、2000 年度から 2019 年度まで、通算で２次 20 年間にわたり続いたプログラム（太田・酒勾 2023）として、日本の国立大学留学生指導関係者の間でよく知られている。しかしながら、それに続く後継事業として 2020 年度から始まった「日韓共同高等教育留学生交流事業」（第３次日韓プログラム）は、すでに文部科学省からの募集は全国の大学に届いているものの、2024 年１月末現在で、その存在は日韓両国内ともよく知られているとは言えないない状況にある[注1]。

本発表は、第３次日韓プログラムの概要と目的を紹介し、同事業を今後日韓両国の友好関係発展に資するよう、どのように運営していくべきかについての知見を得ることを目指す。

注１で触れた募集要項によれば、「第３次日韓プログラム」とは、『1998 年に日韓両国により発表された日韓共同宣言「21 世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」及び同附属書において、政府間の留学生や青少年の交流プログラムの充実の提言に基づき開始した「日韓共同理工系学部留学生事業」の発展型として「日韓共同高等教育留学生交流事業」を実施し日本人学生と韓国人学生の相互交流の拡大及び日本において研究を行うことを通じ、日本と韓国との架け橋となる人材を育成することを目的とする』とされている（下線は発表者による）。

この原型となったのは、2014 年４月に韓国ソウル市の慶熙大学で行われた「日韓共同シンポジウム - 日韓共同理工系学部留学生事業の過去・現在・未来 -」で出された提言[注2]である（太田・酒勾 2023）。提言は第３次日韓プログラムの目的の中にある程度生かされ、左表のような形で 2020 年度からプログラムが始まったが、開始早々コロナ禍による日韓双方の渡航自粛を受け、日本から韓国へ派遣、韓国で受け入れる側のプログラムには、大学院レベルの受入れで定員割れが生じたそうである[注3]。それに対して、日本側の受入れには定員割れが起きていない。その理由は、どのタイプの受入れにおいても、これまで文部科学省や JASSO が行ってきた国費留学制度や JASSO 奨学金の受入れスキームをそのまま流用したから、である。

表　第３次日韓プログラムの派遣・受入概要

		受　入（韓国⇒日本）	派　遣（日本⇒韓国）
学位課程	修士・博士	分野：理工系 支援内容：奨学金、旅費、授業料等 支給期間：標準修業年限及び予備教育期間 受入予定数：15 人/年	分野：限定しない 支援内容：奨学金、旅費、授業料等 支給期間：標準修業年限 派遣予定数：15 人/年
学部	１年コース	分野：日本語・日本文化 支援内容：奨学金、旅費、授業料等 支給期間：１年間 受入予定数：25 人/年	分野：限定しない 支援内容：奨学金、旅費、授業料等 支給期間：１年間 派遣予定数：25 人/年
	短期コース	※大学間協定に基づく交換留学に対して支援 分野：限定しない（協定によるが言語や文化の体験は必須） 支援内容：奨学金 支給期間：３ヶ月以内（協定による） 受入予定数：160 人/年・派遣予定数：160 人/年	

2023 年度からはコロナ禍による渡航規制が日韓両国で全面的に撤廃されたが、第３次日韓プログラムは上記に挙げた目的を十分果たせる状況にあると言えるのだろうか。残念ながら、発表者が

見る限り、まだそのような段階にはないと言わざるをえない。プログラムが開始されて間もないことや、コロナ禍による渡航規制があった事実を捨象してでも、である。

発表者が考える、現時点での第３次日韓プログラムの主な問題点を以下に列挙するが、日韓双方で問題点が異なるため、それぞれを分けて提示すると、次のようになる。

日本側	① 第３次日韓プログラムが第１次・第２次日韓プログラムの後継事業であるという点が、日本国内で十分周知されているとは言いがたい。 ② 日本側では既存の受入れ留学プログラムに組み入れたことにより、第１次・第２次日韓プログラムの時のように「特色ある韓国人留学生」が来なくなってしまう可能性がある。
韓国側	① 第１次・第２次日韓プログラムの日本側予備教育のように、日本人留学生を対象とした韓国語教育と、学部・大学院で様々な専門教育までを併せて行なった実績がまだ少ない。 ② K カルチャーや観光、韓国語教育等以外の専門で、日本から韓国へ留学したくなるような、様々なアカデミック分野におけるニーズの発掘と開拓を行っていく必要がある。 ③ 2020 年度に韓国で受入れを表明した大学 10 校（李 2019）の中に、SKY 大学（ソウル大学、高麗大学、延世大学）のように、留学したいと思えるような大学が含まれていない。

今後これらの問題を日韓両国でどのように解決していくか、その時々の日韓関係に大きく左右されることなく、持続的・継続的に運営していくことが、日韓両国の友好関係に資する、真の意味での第３次日韓プログラムの発展へとつながっていくのではないだろうか。

注

[1] 管見の限り、日本側での通知文として公表されているのは、在大韓民国日本国大使館から発信された同事業の募集要項に限定されている。
https://www.kr.emb-japan.go.jp/what/2024_guidelines_research_jp.pdf（2024.1.31 最終閲覧）

[2] 「日韓双方向で派遣し、受け入れる事業に発展させること」、「分野を理工系から人文・社会科学にも拡張すること」の２点が、主な提言趣旨である。

[3] 2023 年３月８日、韓国教育部・国立国際教育院の受入担当者にヒヤリングして得た情報である。

参考文献

李秀娟（2019）「日韓共同高等教育留学生交流事業（日本人奨学生奨請）」『2019 年度日韓共同理工系学部留学事業協議会資料』、2019. 6. 28、岡山大学主催

太田亨・酒勾康裕（2023）「日韓共同理工系学部留学生事業（日韓プログラム）20 年の歩み - 予備教育を中心に -」『日本語で学ぶ理工系留学生 - 教育・研究・留学生活 -』、ココ出版

2023年度　研究協議会報告

2023 年度国立大学法人留学生指導研究協議会
兼　第 57 回大阪大学留学生教育・支援協議会

主　題：「国立大学法人における国際に関わる教育と支援体制の在り方」

日　時：2024 年 2 月 15 日（木）13：30 ～ 17：00

（オプション A：留学生関係教職員フレッシャーズ対象ランチ交流会（12：00 ～ 13：00））

（オプション B：情報交換会（17：10 ～ 18：30））

場　所：大阪大学吹田キャンパス銀杏会館 3 階ホール

（Ⅰ＆Ⅲ部 オンライン参加可能）

（オプション A：ランチ交流会（12：00 ～ 13：00））

次　第：（敬称略）

［総合司会 大阪大学国際教育交流センター長　　有川友子］

挨　拶（13：30-13：40）　　大阪大学理事・副学長　　山本ベバリー・アン

Ⅰ．留学生受入れに関する施策

（対面＆オンライン参加可能）

1，説　明（13：40-14：10）

「留学生交流に係る最新状況と令和 6 年度関連予算案について」

文部科学省高等教育局参事官（国際担当付）留学生交流室 室長補佐　　高木　歩

2，質疑応答（14：10-14：20）

［Ⅱ＆Ⅲ　コーディネーター：　岡山大学 全学教育・学生支援機構　教授　宇塚万里子］

Ⅱ．分科会「国立大学法人における国際に関わる教育と支援体制の在り方」（14：30-16：00）
（対面のみ参加可能）

A：「大学における留学生相談・支援体制の変化と課題」

ファシリテーター：	大阪大学 国際教育交流センター	准教授	岡本紗知
	金沢大学 理工研究域	准教授	岸田由美

B：「日本語教育と留学生相談対応体制の連携と課題」

ファシリテーター：	東京学芸大学 教職大学院	准教授	米本和弘
	秋田大学 高等教育グローバルセンター	助教	浜田典子

C：「留学生支援にかかわる学内外組織との連携の現状と課題」

ファシリテーター：	茨城大学 全学教育機構国際教育部門	准教授	瀬尾匡輝
	宮崎大学 国際連携機構国際連携センター	准教授	伊藤健一

D：「留学生の就職相談の現状と課題」

ファシリテーター：	静岡大学 国際連携推進機構	教授	袴田麻里
	埼玉大学 国際本部	教授	中本進一

Ⅲ．各分科会からの報告と全体討論　（16：00-16：50）
（対面＆オンライン参加可能）

閉会の挨拶（16：50-17：00）　大阪大学 国際教育交流センター長　有川友子

（オプションB：情報交換会（17：10-18：30））

以上

付　　録

国立大学留学生指導研究協議会
COISAN
Council of International Student Advisors of National Universities

設　　立 ： 1996 年 5 月

設立の経緯 ： 1990 年より国立大学に留学生センターが設置され始めました。これに伴い、留学生に対する相談・指導を担当する教員有志が、大学の枠を超えて相互に情報や意見を交換するとともに、留学生に関する研究を推進する必要性を痛感し、本協議会を設立するに至りました。

主 な 活 動 ：
1. 研究会、セミナーの開催
2. 会誌『留学生交流・指導研究』の発行（毎年 1 回。研究機関誌として発行）
3. 会員名簿の作成
4. 総会の開催
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業

Ｕ　Ｒ　Ｌ ： https://coisan.org

会　　員 ： 下記のように正会員と一般会員があります。どなたでも入会できます。

（1）正 会 員・・・国立大学法人留学生センター等の留学生教育・指導担当教員、または国立大学法人において留学生教育・指導に携わり、これらに関連する領域における研究を推進する方が正会員となることができます。非常勤講師、相談員等を含みます。

（2）一般会員・・・これ以外の方（学生や私立大学教職員等）も一般会員として入会し、投稿することができます。

入　　会 ： 後掲（93 ページ）

投　　稿 ： 後掲（95 ページ）

連　絡　先 ： 〒 565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1 IC ホール 2F
大阪大学国際教育交流センター IRIS（留学生交流情報室）内
国立大学留学生指導研究協議会 事務局（担当 山岸美穂）
電話番号：06-6879-7076　E-mail：info@coisan.org

＊各地区の幹事が、地区ごとの取りまとめの役割を果たしています。詳細は COISAN 組織（92 ページ）をご参照ください。

国立大学留学生指導研究協議会 規約
Council of International Student Advisors of National Universities
（略称 COISAN）

1．名　　称　　本会は、国立大学留学生指導研究協議会（英語名：Council of International Student Advisors of National Universities、略称：COISAN）と称する。

2．事 務 局　　本会は、主たる事務局を大阪府吹田市に置く。事務局の業務規程は別途定める。

3．目　　的　　国立大学法人等における留学生教育・指導にかかわる諸問題について、情報・意見交換を行うとともに、これらに関する研究を推進することを通じて日本と海外諸国間の留学交流の促進と質的向上を図ることを目的とする。

4．事　　業

本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

（1）研究会、セミナー等の開催

（2）『留学生交流・指導研究』の発行

（3）会員名簿の発行

（4）総会の開催

（5）その他前条の目的を達成するために必要な事業

5．会　　員

（1）会員の種類と資格及び会費年額

本会は正会員と一般会員、及び特別会員により構成する。

1）正会員は、次のいずれにも該当し、所定の手続きにより入会を認められた者とする。

①国立大学法人留学生センター等の留学生教育・指導担当教員、または国立大学法人において留学生教育・指導に携わる者（非常勤講師、相談員等を含む）で、これらに関連する領域における研究を推進する者

②本会の運営及び活動への参画の意志のある者

③メーリングリストを介した情報・意見交換に参加する者

④正会員 1 名の推薦を受けた者

⑤会費年額 7,000 円を納める者

2）一般会員は、次の①～③のいずれにも該当し、所定の手続きにより入会を認められた学生、教職員、研究者等とする。

① 5.-(1)-1)-①に記載の資格を有しない者で、本会の趣旨に賛同し、本会の活動への参加を希望する者

②本会正会員 1 名の推薦を受ける者

③会費年額 7,000 円を納める者

3）特別会員は、幹事会により特に必要と認められた者とする。会費等は別途定める。

（2）入　　会

本会への入会は、幹事会の議を経て代表幹事が承認しなければならない。

（3）退　　会

次の事項に該当する場合、幹事会の議を経て、代表幹事は当該会員を退会とすることができる。

1）本人から退会の申し出があった時

2）会費が未納である時

3）本会の趣旨に著しく違反した時

6．組織・運営

（1）組　　織

本会には、幹事会及び編集委員会を置く。

1）幹事会は、地区幹事、特別幹事、監事、及び編集委員長で構成する。幹事会には代表幹事 1 名、副代表幹事 1 名以上を置く。

2）編集委員会は、編集委員長 1 名及び編集委員で構成する。副委員長を置くことができる。

3）代表幹事、副代表幹事、幹事、監事、及び編集委員長は総会において正会員の中から選出され、その任期は 2 年とする。但し、原則として継続 2 期を限度として、再任を妨げない。任期年度は 7 月 1 日から翌年 6 月末日までとする。

（2）運　　営

本会は年 1 回の総会を開催する。総会は正会員で構成し、役員の選出、活動計画、予算等本会運営にかかわる諸事項を決定する。

本会の運営は総会の決定に基づき、幹事会が行う。

代表幹事は会の運営を統括するとともに本会の代表となる。幹事はそれぞれ分担して本会の運営に当たる。

編集委員長は幹事会の決定に基づき編集委員会を組織し、研究機関誌の発行の企画・発刊に当たる。

本会の会計年度は 4 月 1 日から翌年 3 月末日までとする。

7．規約の改正　　本規約は 1996 年 5 月 24 日をもって発行する。

1997 年 6 月 6 日　一部改正

1999 年 6 月 11 日　一部改正

2005 年 3 月 11 日　一部改正

2007 年 6 月 21 日　一部改正

2012 年 6 月 22 日　一部改正

2018 年 6 月 26 日　一部改正

2019 年 7 月 11 日　一部改正

2023 年 6 月 30 日　一部改正

令和５年度（2023 年度）役員

◆代表幹事　有川 友子〈大阪大学〉（歴代代表幹事）

◆副代表幹事　岸田 由美〈金沢大学〉
宇塚 万里子〈岡山大学〉

◆地区幹事

北海道・東北地区	濵田 典子〈秋田大学〉
関東地区	米本 和弘〈東京学芸大学〉
関東地区	瀬尾 匡輝〈茨城大学〉（HP 担当幹事）
中部地区	袴田 麻里〈静岡大学〉
中部地区	松野 美海〈名古屋工業大学〉
近畿地区	黒田 千晴〈神戸大学〉
近畿地区	岡本 紗知〈大阪大学〉
中国・四国地区	村上 和弘〈愛媛大学〉
九州・沖縄地区	伊藤 健一〈宮崎大学〉

◆特別幹事　有川 友子〈大阪大学〉（代表幹事）
岸田 由美〈金沢大学〉（副代表幹事）（HP 担当幹事）
宇塚 万里子〈岡山大学〉（副代表幹事）
園田 智子〈東京大学〉（研究会担当幹事）
市島 佑起子〈鹿児島大学〉（コミュニケーション担当幹事）

◆監事　渡部 留美〈東北大学〉
田中 京子〈名古屋大学〉

◆編集委員長　和田 尚子〈名古屋大学（新）〉

◆歴代代表幹事

2020 年 7 月～ 2022 年 6 月	中本 進一	埼玉大学教授
2016 年 7 月～ 2020 年 6 月	安　龍洙	茨城大学教授
2012 年 7 月～ 2016 年 6 月	有川 友子	大阪大学教授
2008 年 7 月～ 2012 年 6 月	門倉 正美	横浜国立大学名誉教授
2006 年 7 月～ 2008 年 6 月	瀬口 郁子	神戸大学名誉教授
2002 年 7 月～ 2006 年 6 月	楢原　暁	元東京大学教授
2000 年 7 月～ 2002 年 6 月	三宅 政子	元名古屋大学教授
1996 年 5 月～ 2000 年 6 月	古城 紀雄	大阪大学名誉教授

入 会 案 内

〈1〉入会希望者は、入会申込書に必要事項を記入の上、入会申込をメールで事務局（info@coisan.org）にお送りください。

＊入会には、本会正会員１名の推薦が必要となります。

〈2〉入会が受理されると、その旨通知されます。

＊手続き書類を送りますので、年会費 7,000 円をお納めください。

〈3〉入会者には最新の機関誌などの資料が送付されます。

〈4〉以降、機関誌への投稿案内、総会、研究会などについては、電子メール及び国立大学留学生指導研究協議会のホームページでお知らせします。機関誌は、郵送で送付されます。

国立大学留学生指導研究協議会（ＣＯＩＳＡＮ）入会申込書

＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

以下の通り入会を申し込みます。

（該当する□を■に変えてください）

会員の種類　□**正 会 員**　国立大学法人留学生センター等の留学生教育・指導担当教員、または国立大学法人において留学生教育・指導に携わる方（非常勤講師、相談員等を含む）

□**一般会員**　上記以外の方

(ﾌﾘｶﾞﾅ)　（　　）	
名　前　　（　□男・□女　）	
勤務先・所属（大学、学部・研究科、センター、団体名等）	□　**教職員**（役職等：　　） □　**学生**　（課程・学年：　　） □　**その他**（役職等：　　）
連絡先　住所（〒　　） 電話：＿＿＿＿＿＿＿＿　FAX：＿＿＿＿＿＿＿＿ E-mail：＿＿＿＿＿＿＿＿	
上記以外の連絡先があればご記入ください。	
研究分野（30字以内）	
留学生と関わる分野（30字以内）	
推薦者　氏名・連絡先（E-mail・電話）等 ※確認のためE-mail等で推薦者宛に連絡しますので、あらかじめご了承ください（推薦者自筆で捺印のある場合を除きます）。	

以下事務局記入欄　　*申し込み受付＿＿＿年＿＿月＿＿日　受付者名（　　）*

会員№.（　　）

『留学生交流・指導研究』第 27 号投稿規程

〈投稿資格〉

1．　本誌に投稿できる者は、国立大学留学生指導研究協議会の会員でなければならない。なお、共著者に非会員を含むことはできるが、第一筆者は国立大学留学生指導研究協議会の会員とする。ただし、編集委員会が特に行う原稿執筆依頼は、非会員に対しても行うことができるものとする。また、同一著者による投稿の掲載が連続する場合は、原則連続 2 回を限度とする。

〈投稿内容、使用言語、投稿種目〉

2．　投稿内容：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野に関するもので、未発表のものに限る。他の学会誌などへの重複投稿はしないこと。ただし、口頭発表、プリント類はその限りではない。

3．　使用言語:日本語または英語。投稿者の原稿の言語が母語と異なる場合、提出原稿はネイティブチェック済みであること。

4．　投稿の種目を以下のとおりとする。投稿者は原稿に種目を明示しなければならない。

1）研究論文：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、過去の知見に加えるべき学術的意義のある独創的な研究成果が明確に述べられているもの。関連する領域における先行研究の内容が十分に把握され、研究課題が明確に設定されており、実証的・論理的に課題への解答が示されていることが必要。

2）研究ノート：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、新たな視点・着想、新規性のある事実の発見、前提的考察、先駆的発想、萌芽的研究課題の提起、古典の見直しなど、将来の優れた研究につながる可能性のある内容を、研究論文としての形式にとらわれずに自由に論を展開することができるもの。

3）実践報告・調査報告：実践報告においては、留学生指導、国際教育交流の現場における実践の内容が具体的かつ明示的に述べられており、その内容を広く公開して共有することの意義が明確なもの。調査報告においては、留学生指導、国際教育交流分野において、調査の目的が明確であり、調査の方法・分析・解釈が妥当であり、調査の結果に資料的価値が認められるもの。実践報告・調査報告いずれにおいても、単なる内容の報告に留まらず、的確な考察がなされていること。

4）書評：留学生指導、国際教育交流などに関する書籍の論評。

5）その他：編集委員会が特に依頼したもの（特集、特別寄稿、講演など）。

〈倫理ガイドライン〉

5．　投稿に際しては以下の倫理を守ること。

1）研究の実施および研究成果の公表について、調査対象者に説明し、同意を得ている。

2）個人のプライバシーに配慮し、個人情報が特定・類推されることがないよう、細心の注意を払うこと。また、可能な限り、論文公表の同意を得ること。

3）特定の機関を対象とした研究では、該当機関の長に論文公表についての同意を得ること。

4）倫理的な配慮を行っていることを本文中に明記すること。

6．　書式：A4 横書き、和文 43 字× 30 行（英文 44 行）とし、ファイル形式は PDF ファイルとする。カラーの図、表、写真などは、あらかじめグレースケールに変換すること。

7．　分量：編集委員会が特に指定した場合を除き、研究論文、研究ノート、実践・調査報告は 15 ページ以内（図、表、写真などを含める、要旨は除く）、書評は 2 ページ以内とする。書評は冒頭に、①書名、②著者名、③出版社名、④出版年、⑤頁数、⑥定価、⑦氏名、⑧所属を示す。洋書の場合も和書に準じるが、書名はイタリック体で示すこと。

8．　要旨・キーワード：研究論文、研究ノート、実践報告・調査報告においては、日本語の場合 400 字程度、英語の場合 200 語程度の要旨を添付し、5 つ以内でキーワードを添付する。なお、要旨は投稿連絡票にのみ記載し、原稿には記載しないこと。

9．　本文中の固有名詞：執筆者が特定される地名や大学名等は、伏せ字（例：A 県，α大学）にして記すること。なお、原稿の内容上必要不可欠な地名や大学名等は、編集委員会で審議し査読後、倫理ガイドラインを守った上で実名での表記を認める場合もある。

10.　本文中の引用元の表記：著者名が多数の場合も、全ての著者名を記すこととする（例：加賀美・横田・坪井・工藤（2012））。ただし、同じ文献の引用が複数回ある場合の文中引用では、初出の際は全著者の姓を記し、2 回目以降の引用では第 3 著者までの姓のみ記載し、他の著者は他として省略することとする（例：加賀美・横田・坪井他（2012））。

11.　引用・参考文献は項目を別に設け、本文中で言及したものが過不足なく記されていること。一覧を文末にまとめ、和文単行本の場合は：著者名（刊行年）『書名』発行書店名とし、洋書単行本の場合は：Author 姓、名のイニシャル（Publication year）*Title* イタリック体、Publisher とする。和雑誌の場合は：著者名（刊行年）「表題」『雑誌名』巻数号数、ページの始めと終わりとし、洋雑誌の場合は：Author 姓、名のイニシャル（Publication year）“Title”, *Journal title* イタリック体, Volume, Number, Pages とする。ウェブサイトからの引用資料の場合は：資料提供機関等（掲載年）「タイトル」URL（閲覧日）とする。

著者名が多数の場合も、全ての著者名を記すこととする。日本語文献と外国語文献とを、それぞれまとめて、日本語文献、外国語文献の順に記載し、日本語文献は第一著者の姓の五十音順に、外国語文献は第一著者の姓のアルファベット順に配列する。日本語訳書を引用した場合は、日本語文献にまとめる。ウェブサイトからの引用資料は、日本語のサイトを日本語文献にまとめ、外国語のサイトを外国語文献にまとめる。

なお、執筆者自身の文献を引用する際に、「拙書」「拙稿」など執筆者が特定される表現を避けること。伏せ字は使用しないこと。

例）［引用・参考文献］

加賀美常美代・横田雅弘・坪井健・工藤和宏（2012）『多文化社会の偏見・差別－形成のメカニズムと低減のための教育－』明石書店

高松里（2006）「国際交流学生サークル活動への教育的サポート：九州大学国際親善会の活動と会への支援」『九州大学留学生センター紀要』第 15 巻、pp.67-74

日本語教育振興協会（2006）「日本語教育機関の概況」http://www.nisshinkyo.org/j147.

pdf（2016 年 12 月 20 日閲覧）
ホール・エドワード（日高敏隆・佐藤信行訳）（1970）『かくれた次元』みすず書房（Hall, E.（1966）The Hidden Dimension, Anchor Books）
Piller I（2010）*Intercultural Communication: A Critical Introduction*, Edinburgh University Press
Schwartz SJ, Unger JB, Zamboanga BL, Szapocznik J（2010）“Rethinking the Concept of Acculturation Implications for Theory and Research”, *American Psychologist*, vol.65, No.4, pp.237-251
Zhou Y, Jindal-Snape D, Topping K, Todman J（2008）“Theoretical Models of Culture Shock and Adaptation in International Students in Higher Education”, *Students in Higher Education*, vol. 33, No.1, pp.63-75

〈投稿の採否〉

12.　投稿原稿掲載の採否は、種目 1）～ 3）については、査読を経て、編集委員会で審議し、種目 4）5）については、編集委員会で審議し、決定する。審議の結果、内容、構成、表現等が不適切と判断された場合は、投稿者へ原稿の修正および投稿種目の変更を依頼する場合がある。

〈校正〉

13.　投稿者による校正は初稿までとする。校正においては、内容的な修正は原則として認めない。

〈著作権〉

14.　『留学生交流・指導研究』に掲載された原稿の著作権は、国立大学留学生指導研究協議会に属するものとする。著者は、掲載された論文の電子化とその公開を承諾するものとする。

〈抜刷り〉

15.　抜刷りを希望する投稿者は、完成原稿提出時に編集委員長が指定した方法に従う。抜刷りに要 する費用は、投稿者が全額負担する。

〈投稿申込み、原稿締切〉

16.　投稿予定者は毎年 7 月 15 日までに表題および投稿種目を明示して、編集委員長あてに e-mail で投稿を申し込むこと。その上で、毎年 8 月 31 日までに原稿（PDF ファイル）・投稿連絡票・投稿チェックリストを添付し、編集委員長あてに e-mail で送信すること。投稿連絡票および投稿チェックリスト、論文の書式は、国立大学留学生指導研究協議会のホームページよりダウンロードして使用する。

なお、要旨は投稿連絡票にのみ記載し、原稿には記載しないこと。また、PDF ファイルのプロパティなどに投稿者の個人情報が残らないよう注意すること。

（国立大学留学生指導研究協議会ホームページ）
https://coisan.org/

〈投稿申込み先、原稿送付先〉

e-mail : w.hisako@iee.nagoya-u.ac.jp
（COISAN ジャーナル編集委員長　和田）

『留学生交流・指導研究』編集規程

〈名　　称〉

1．　本誌は国立大学留学生指導研究協議会（以下「COISAN」と称す）機関誌であり、原則として年一回発行する。

〈掲載記事の種別〉

2．　本誌は留学生指導及び国際教育交流にかかわる研究論文、実践報告・調査報告、書評、その他関連記事を掲載する。

それぞれの内容については以下のとおりとする。

1）　研究論文：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、過去の知見に加えるべき学術的意義のある独創的な研究成果が明確に述べられているもの。関連する領域における先行研究の内容が十分に把握され、研究課題が明確に設定されており、実証的・論理的に課題への解答が示されていることが必要。

2）　研究ノート：留学生指導、国際教育交流およびその周辺分野について、新たな視点・着想、新規性のある事実の発見、前提的考察、先駆的発想、萌芽的研究課題の提起、古典の見直しなど、将来の優れた研究につながる可能性のある内容を、研究論文としての形式にとらわれずに自由に論を展開することができるもの。

3）　実践報告・調査報告：実践報告においては、留学生指導、国際教育交流の現場における実践の内容が具体的かつ明示的に述べられており、その内容を広く公開して共有することの意義が明確なもの。調査報告においては、留学生指導、国際教育交流分野において、調査の目的が明確であり、調査の方法・分析・解釈が妥当であり、調査の結果に資料的価値が認められるもの。実践報告・調査報告いずれにおいても、単なる内容の報告に留まらず、的確な考察がなされていること。

4）書評：留学生指導、国際教育交流などに関する書籍の論評。

5）その他：編集委員会が特に依頼したもの（特集、特別寄稿、講演など）。

〈採否の決定〉

3．　前条 1）～ 3）項の投稿原稿の掲載の採否は、審査員会の査読を経て、編集委員会で審議し決定する。4)、5）については、編集委員会で審議し決定する。

〈校　　正〉

4．　執筆者による校正は初稿までとする。その場合、内容的な修正は原則的に認めない。

〈抜 き 刷 り〉

5．　抜き刷りを希望する投稿者は完成原稿提出時に編集委員長に依頼する。抜き刷りに要する費用は投稿者が全額負担する。

以上

Journal of International Student Advisors and Educators
No. 27 Posting Regulations

〈Qualification for Posting〉

1. Those who post this Journal must be members of the Council of International Student Advisors of National Universities. Non-members can be included as co-authors, but the primary author must be a member of the Council of International Student Advisors of National Universities.

   However, manuscript orders, especially by the editorial committee, can be ordered for non-members. Consecutive posts by the same author are limited to 2 posts under normal circumstances.

〈Contents Posted, Languages Used, Categories〉

2. Content Posted: Content posted must be related to Advice to International Students, International Education Exchange or their related fields, and must be as-of-yet-unannounced. Duplicate postings to other academic conference journals are prohibited, provided that oral presentations and handouts are not limited to this.
3. Languages Used: Japanese or English. When the languages of posters' manuscripts are different from their native languages, the submitted manuscripts must be checked by a native speaker.
4. The categories to be posted are as follows. Posters must clearly describe the categories of their manuscripts.
   1) Research Article: The Research Article is required to clearly describe unique study outcomes with academic significance related to Advice to International Students, International Education Exchange of their related fields, which should be added to existing knowledge. It is necessary that preceding studies related to the field are well understood, research agenda is clearly set and the answers to the agenda are shown empirically and logically.
   2) Research Note: In the Research Note, contents which lead to future excellence in Advice to International Students, International Education Exchange including fresh perspectives/ideas, discovery of novel facts, prerequisite considerations, pioneering ideas, introduction of budding research agendas and re-examination of previous studies can be freely developed regardless of the format of the Research Article.
   3) Practice Report/Research Report: In the Practice Report, the contents at the sites of the Advice to International Students and International Education Exchange must be described concretely and expressly, and must have clear significance to disclose and share widely. In the Research Report, it is required that the purpose of the research is clear, the methods of

research, analysis and interpretation are reasonable, and the findings of the research must be recognized to have material value in the Advice to International Students and International Education Exchange fields, Either Practice Reports or Research Reports are not just reports but accurate considerations must be given.

4) A Book Review: A Book Review is a commentary on the Advice to International Students and International Education Exchange, etc.

5) Others: Specially requested by the editorial committee. (special issues, special contributions, lectures, etc.)

〈Ethic Guidelines〉

5. Observe the following ethics when posting.

1) Explain your procedure to research subjects and obtain their consent regarding implementation of research and publication of results.

2) Take due consideration for personal privacy and pay careful attention so that personal information cannot be identified or inferred. Prior to publication, obtain consent from parties involved as much as possible.

3) For research targeting specific institutions, obtain consent from the head(s) of those institutions prior to publication.

4) Clearly state on your manuscripts that ethical consideration has been taken.

〈Manuscripts〉

6. Format: A4 Horizontal writing

Japanese characters 43x30 lines (English 44 lines)

File format: PDF file

Colored figures, lists and pictures will be converted to grayscale.

7. Volume: The Research Articles, Research Notes and Practice/Research Reports must be under 15 pages (including figures, lists, pictures, etc.; excluding the abstract), and Book Reviews under 2 pages, except when designated by the editorial committee. At the beginning of a book review, indicate 1.Book title, 2. Author's name, 3. Publisher's name 4. Year of publication, 5. No. of pages, 6. Fixed price, 7. Reviewer's name 8. Reviewer's university. The same is applied to Western books, but titles must be written in italics.

8. Summary/Keywords: Attach a summary of about 400 characters for Japanese and about 200 words for English to Research Articles, Research Notes and Practice/Research Reports. Also Attach 5 or less keywords. Write summaries only on the post contact form but not on the manuscript.

9. Proper nouns in the manuscript: Names of places or universities that could possibly specify the author must be substituted with letters/symbols (e.g., prefecture A, university α). However, in some cases such that the use of proper nouns is unavoidable given the content of the manuscript, after proper deliberation and peer review by the editorial committee, the use

of real names may be permitted in accordance with the ethical guidelines.

10. Citations: All the authors' names must be listed (example: Kagami, Yokota, Tsuboi, Kudo (2012)) regardless of the number of the authors. However, if the same document source is cited more than once, the surnames of ALL authors must be listed ONLY when they first appear, and only the surnames up to the third author are listed in the second and subsequent citations, the rest of authors being omitted. (Example: Kagami, Yokota, Tsuboi et al. (2012)).

11. Quotations and reference items are separately listed. All quotations and references used in the manuscript must be included in the list, without excess or deficiency, in the following orders.

The lists are summarized at the end of the manuscript.

Single Japanese research books: Write the Author's name (Publication year),『Book title』and Issuing bookstore's name.

Single Western research books: Write Author's initials of the surname and first name, (Publication year), '*Title*', and Publisher.

Japanese journals: Author's name, (publication year),「Title」,『Name of journal』, Issue no., Relevant pages.

Western journals: Write Author's initials of the surname and first name, (Publication year), '*Title*', *Journal title*, Volume, Number, Pages.

In the case of materials quoted from a website, include the name of the source, (year of posting),「Title」, URL, (Date of access).

All the authors' names must be listed regardless of the number of the authors. Summarize Japanese and foreign literatures, respectively, and list them in the order of first Japanese and then foreign literature. Japanese literature is arranged in the Japanese alphabetical order by the surnames of the primary authors, and foreign literature is in the alphabetical order by the surnames of the primary authors. When a translation into Japanese is quoted, summarize it as Japanese literature. When materials are quoted from websites, summarize the material quoted from Japanese websites as Japanese literature and from foreign sites as foreign literature, respectively.

Avoid using phrases like 'my research book' or 'my research manuscript' when quoting from a writer's own literature in order to avoid revealing the author's identity. Do not use ciphers.

Example

［Quotation/Reference Literature］

加賀美常美代・横田雅弘・坪井健・工藤和宏（2012）『多文化社会の偏見・差別－形成のメカニズムと低減のための教育－』明石書店

高松里（2006）「国際交流学生サークル活動への教育的サポート：九州大学国際親善会の活動と会への支援」『九州大学留学生センター紀要』第 15 巻、pp.67-74

日本語教育振興協会（2006）「日本語教育機関の概況」

http://www.nisshinkyo.org/j147.pdf（2016 年 12 月 20 日閲覧）
ホール・エドワード（日高敏隆・佐藤信行訳）（1970）『かくれた次元』みすず書房
（Hall, E.（1966）The Hidden Dimension, Anchor Books）
Piller I（2010）*Intercultural Communication: A Critical Introduction*, Edinburgh University Press
Schwartz SJ, Unger JB, Zamboanga BL, Szapocznik J（2010）"Rethinking the Concept of Acculturation Implications for Theory and Research", *American Psychologist*, vol.65, No.4, pp.237-251
Zhou Y, Jindal-Snape D, Topping K, Todman J（2008）"Theoretical Models of Culture Shock and Adaptation in International Students in Higher Education", *Students in Higher Education*, vol. 33, No.1, pp.63-75

〈Acceptance or Rejection of Posts〉

12. Acceptance or Rejection of posted manuscripts is decided by deliberation among the editorial committee after peer review for categories 1)-3) and by deliberation among the editorial committee for 4)-5).
As a result of deliberation, if it is determined that contents, structure, expressions etc. are inappropriate, posters may be requested to make corrections and/or change their category.

〈Proofreading〉

13. Proofreading by a poster is limited to the first draft. After the proofreading, content changes are not allowed under normal circumstances.

〈Copyrights〉

14. Copyrights of the manuscripts published on the Journal of International Student Advisors and Educators belong to Council of International Student Advisors of National Universities. By publishing in the journal, authors agree to allow COISAN to publish their article online.

〈Offprint〉

15. Posters who wish to offprint shall follow the method designated by the chief editor at the time of manuscript completion. Full cost for offprint is borne by the posters.

〈Posting Application and Manuscript Deadline Dates〉

16. Those who plan to post should apply to the chief editor by e-mail, clearly stating their titles and posting categories by July 15th of that year.
Then send their manuscripts (in PDF format), posting contact forms and posting check lists to the chief editor via email by August 31st. Download the posting contact form, posting check list and format from the homepage of the Council of International Student Advisors of National Universities.
Write the summary only on the posting contact form, but not on the manuscripts. Be careful not to leave the poster's personal information on the PDF properties, etc.
(Homepage of the Council of International Student Advisors of National Universities)

https://coisan.org/

〈Where to apply postings to/ Where manuscripts are sent to〉

e-mail: w.hisako@iee.nagoya-u.ac.jp
(Professor WADA, Chief Editor of the Journal of COISAN)

Editing Regulations for
『Journal of International Student Advisors and Educators』

〈Name〉

1. This journal is the Journal of International Student Advisors and Educators (hereinafter referred to as 'COISAN'), and is published once a year under normal circumstances.

〈Categories of Articles Published〉

2. The Research Articles, Practical Reports, Research Reports, Book Reviews and others related to Advice for International Students and International Exchange are published in the Journal. Each content is as follows.
   1) Research Article: The Research Article is required to clearly describe unique study outcomes with academic significance related to Advice to International Students, International Education Exchange of their related fields, which should be added to existing knowledge. It is necessary that preceding studies related to the field are well understood, research agenda is clearly set and the answers to the agenda are shown empirically and logically.
   2) Research Note: In the Research Note, contents which lead to future excellence in Advice to International Students, International Education Exchange including fresh perspectives/ideas, discovery of novel facts, prerequisite considerations, pioneering ideas, introduction of budding research agendas and re-examination of previous studies can be freely developed regardless of the format of the Research Article.
   3) Practice Report/Research Report: In the Practice Report, the contents at the sites of the Advice to International Students and International Education Exchange must be described concretely and expressly, and must have clear significance to disclose and share widely. In the Research Report, it is required that the purpose of the research is clear, the methods of research, analysis and interpretation are reasonable, and the findings of the research must be recognized to have material value in the Advice to International Students and International Education Exchange fields, Either Practice Reports or Research Reports are not just reports but accurate considerations must be given.
   4) A Book Review: A Book Review is a commentary on the Advice to International Students and International Education Exchange, etc.
   5) Others: Specially requested by the editorial committee. (special issues, special contributions, lectures, etc.)

〈Decision of Acceptance and Reject〉

3. Acceptance or Rejection of posted manuscripts is decided by deliberation among the

editorial committee after peer review for categories 1)-3) and by deliberation among the editorial committee for 4)-5).

〈Proofreading〉

4. Proofreading by a poster is limited to the first draft. Content changes are not allowed under normal circumstances.

〈Offprint〉

5. Posters who wish to offprint shall request the chief editor at the time of manuscript completion. Full cost for offprint is borne by the posters.

編集後記

COISAN会員の皆様に『留学生交流・指導研究』第26号をお届けいたします。本号では特集記事ならびに研究ノート1本・実践報告2本を掲載しました。特集記事では、長年COISANに貢献していただきました名古屋大学の田中京子先生（元副代表幹事・編集委員長）、埼玉大学の中本進一先生（前COISAN代表幹事）、香川大学のロン・リム先生（元幹事）から留学生アドバイジングを通してのご経験の共有と皆様への今後の指針を示唆していただきました。論文・実践報告では、日韓共同理工系学部留学生事業や国際共修授業、大学におけるセンターの位置づけなどCOISANらしい幅広い論考が紹介されています。

コロナ禍を経て昨年に引き続き研究会も対面およびオンラインのハイブリッドで開催されるとともに、『留学生交流・指導研究』に収録された論文がCOISANのホームページに加えJ-Stageへの掲載も進められています。時代の要請に応え、より多くの方々に日頃の研究成果を知らしめる機会が提供され、『留学生交流・指導研究』がさらに質の高い多様な研究成果の発表の場としての役割を果たすことを願っております。

最後に、今号も研究成果をご投稿いただいた方、厳しくも温かい査読をしてくださった方々のご協力の下、発行に至りましたことを心より御礼申し上げます。引き続き、皆様の研究成果のご投稿をお待ちしております。

（大塚）

ISSN1343-4683

留学生交流・指導研究
Volume 26

非売品

編　集　国立大学留学生指導研究協議会
『留学生交流・指導研究』編集委員会
和田 尚子（委員長：名古屋大学）、大塚 薫（高知大学）、河合 淳子（京都大学）、
仙石 祐（信州大学）、服部 明子（三重大学）、堀尾 佳以（宇都宮大学）

発行日　2024年3月31日

発　行　国立大学留学生指導研究協議会

問合先　〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1　ICホール
大阪大学国際教育交流センター　IRIS（留学生交流情報室）内
Tel : 06-6879-7076　Fax : 06-6879-7119
e-mail : info@coisan.org

URL　https://coisan.org/

制　作　株式会社 コームラ　e-mail : main@kohmura.co.jp

Journal of International Student Advisors and Educators

Volume 26 / 2023

Foreword ARIKAWA Yuko ····· 3

▪ Knowledge and Skills in International Student Advising: Learning from the Experiences of the Pioneers

· 33 Years' Journey as an International Student Advisor:
What I have learned and what I would still like to learn
TANAKA Kyoko ····· 7

· My Professional Footprint with COISAN:
A Japanese Approach to Advising Services for International Students
NAKAMOTO Shinichi ····· 13

· 'To be a someone whom others would like to meet again tomorrow'
LRONG Lim ····· 19

▪ Articles

[Research Note]

· The Career Tracking Survey of the Japan-Korea Joint Undergraduate Program for Science and Engineering Students (The Japan-Korea Program):
Focusing on the Analysis of the Interview Survey
OTA Akira ····· 27

[Practice Report]

· Case Study of Hybrid Intercultural Co-learning Class:
Creating Equal Relationship among the Students
TAKAMATSU Mino ····· 41

· Changes in International Student Counseling and Support Organization:
The Impact of the 13 Reorganizations on the Field of Practice
TANAKA Kyoko ····· 55

Summary in English ····· 71

▪ Report

[Report on the 12th COISAN Research Conference]

· Practice of thematic orientation for new international students
WATANABE Rumi ····· 79

· An Effort to Revitalize the Japan-Korea Joint Higher Education Exchange Program
(The 3rd decade-term of the Japan-Korea Program)
OTA Akira ····· 81

Report of COISAN Symposium 2023 ····· 85

APPENDIX ····· 87

The Editor's Note ····· 106